目黒区議会議員選挙　選挙公報

目黒区選挙管理委員会

マスクをはずし、脱コロナへ！

先日の文部科学省発表によれば、昨年に自殺した小中高校の児童・生徒は５１２人で、過去最多となりました。きわめて深刻な事態です。
過剰な感染症対策など、子どもを抑圧した結果では？と考えてしまいます。
未来ある子どもを守ってこその”政治”です。過去を総括し、目黒区の未来のために行うべきことを、後谷ちほが提案してまいります。

市民をつなぐ党　後谷ちほの"重点政策"

① コロナ禍からの卒業
新型コロナウイルスによる社会の混乱。あらゆる対策や行政判断が「緊急事態」という言葉で正当化されていたように思います。感染症対策として講じた政策の結果を検証し、次世代のための教訓にしていきます。
- 新型コロナ感染症対策の抜本的見直し
- コロナワクチン被害者救済窓口の設置
- ワクチンハラスメント、マスク強要の実態調査

② 子どもがのびのび育つ区に
いつの時代にも、子どもたちの存在は大きなものです。若いということは可能性であり、我々大人はその若芽に手をかけすぎるのではなく、生命力のままに育つよう応援します。
- 学童保育の待機児童問題を解消
- 教育カリキュラムの見直し、学びの選択肢の拡大
- 自由に遊ぶ冒険あそび場（プレーパーク）の設置提案

③ 食の「安全」を守る
現在日本においては、危険な農薬の残留基準が海外と比較して緩い状況になっています。区民が安全な食品を入手できる環境をつくるために、目黒区民の食の安全を守る条例づくりに積極的に取り組みます。
- オーガニック給食の実現
- 農薬に頼らない農作物を扱う飲食店等の支援
- 遺伝子組み換えやゲノム編集、昆虫食など、特に新しい食品には目黒区独自の規制を設定

後谷 ちほ（うしろだに ちほ）： 1977年兵庫県芦屋市出身。
実家は八百屋。武庫川女子大学附属中高短大卒。美肌研究家。
明治安田生命保険（相）を経て、エステサロン会社経営歴20年。
栄養士。薬膳アドバイザー。内海式薬害研究センター認定セラピスト。CIDESCOインターナショナルエステティシャン。趣味 料理研究。
特技 歌って踊ること。 AB型。さそり座 。動物占い 黒ヒョウ。

私たちも応援します！ ★公式ＨＰ★
山田正彦　（元農林水産大臣・弁護士）
内海　聡　（市民をつなぐ党代表・医師）
池田としえ（日野市議会議員）
長嶋竜弘　（鎌倉市議会議員）
入澤繭子　（前橋市議会議員）

後谷（うしろだに）ちほ

市民をつなぐ党 公認

25歳からの４年間、最年少の区議会議員として、若者目線で270項目以上の区政改革を訴え、さらにその中の88項目で実際に目黒区を変えてきました。
一方で、私が真に変えたい「少子化対策」や「若者の政治参画」などの分野では、その問題の大きさゆえに、変革まで至らず……。まだまだ課題が山積しています。
今と30年後の目黒区のために、29歳、働かせてください！

現職最年少 29歳

20代議員でも88の実績！

- 実現 子どものインフルワクチンへの補助
- 実現 ベビーシッター利用への補助
- 実現 本をネット上で読める電子図書館
- 充実 政治参画の大切さを教える主権者教育
- 実現 出産時に区独自で2万円助成
- 実現 富士山噴火時の火山灰対策

まだまだあります 全ての実績はHPから

こんな 目黒 をつくりたい

30年先を見据えた区政運営
- 予算付きの若者議会で若者の提案実現を保証
- 主権者教育とディベート教育の更なる推進

理不尽な我慢を見過ごさない福祉
- 産前産後の負担軽減（健診、産後ケアの充実）
- ランランひろばの充実で学童不足に備える
- 介護予防の取組に、区内店舗で使えるポイント支給

不便・不公平・不合理の打破
- 行政のデジタル化を進め、手続きを簡単に

災害に強いまちづくり
- 地震と他の災害の同時発生への備えを

“文化縁（ぶんかえん）”のまち めぐろ
- 図書館の機能充実とイベントの活性化
- 音大との連携で、目黒区を音楽あふれる街に

地域コミュニティの再考
- 負担の少ない緩やかな地域コミュニティに

現職最年少 29歳　防災士　東京若手議員の会 副代表　区政情報を発信中！　特技 チェロ演奏 剣道（２段）　選挙カーは使いません

- 1993年11月23日生まれ
- **区立原町小学校**　卒業
- **都立桜修館中等教育学校**　卒業
  都立大学附属高校を前身とする同校の**1期生**。自治会（生徒会）長。
- **北海道大学 法学部**　卒業
- **まちづくりコンサルティング会社**　勤務
  市区町村の行政計画づくりに携わる中で、若い世代の声が政治に届かない現状に危機感を抱き退職、政治の道を志す。
- **2019年　25歳で区政史上最年少当選**（現職１期）
  無所属議員3人会派（チーム）の幹事長（リーダー）を3年間務め、270以上の政策提言と、88の政策実現。

若者のミカタ 一般社団法人 日本青年議員団 認定立候補者

かいでん 和弘（改田）

無所属 29歳

れいわ 新選組

れいわ新選組

消費税は廃止　インボイス中止

4つの「区ぢからアップ」こども・おとしよりにやさしく

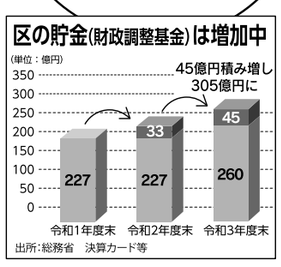
① こども・おとしよりを支援
- 食料自給率向上を消費地として支援・13,000人分公立小中学校の無償オーガニック給食（約8億円）、学童の無償化・指導員の待遇改善
- 高齢者在宅支援ヘルパー制度を使いやすく

② 小規模店舗・動物にもやさしく
- 小規模店舗向け、インフレ対策補助
- 保護犬、保護猫NPOの支援強化、ペットの避難所対策

③ 誰ひとり取り残さない！
- 被災者応急仮設住宅訴訟（住まいは権利）、公立中学校統廃合、羽田新ルート騒音など、区民の困りごとを、区政にお届け

④ 区政をレポート
- 多くの企業を取材（経営者、工場、店舗）したアナリスト時代の経験を活かし、区政のポイントをお伝え

1,000億円超の予算、300億以上の貯金を区民のために使い、日本の景気を目黒区から1ミリでも良くしたい。



プロフィール
目黒区中根在住　1971年8月群馬県富岡市生まれ、51才
学　歴：1994年 慶応義塾大学総合政策学部卒（SFC1期生）1996年 同大学院政策・メディア研究科修了
職　歴：外資証券アナリストなど金融機関にて業界・企業・ファンド等の調査を約25年行う。農業系ベンチャーを経て、独立（国産無添加ペットフード開発中）

ホームページ　TWitter　Tiktok

れいわ新選組公認 こいでまあり

山本太郎（参議院議員 れいわ新選組代表）推薦

向き合い、寄りそい、あなたの未来へ

PROFILE
●昭和39年10月3日　目黒生まれの目黒育ち ●区立向原小・9中・都立深沢高校卒、日本大学生産工学部卒 ●現(株)LIXIL（旧トステム(株)）で商品開発に従事 ●区議4期

campaign pledge 関けんいちの挑戦

1.ずっと住みよい目黒に
- 若者も住みやすい新たな南部エリアをつくります。再開発の進む西小山駅周辺をはじめ、林試の森、区立中央体育館、平和通り商店街など地元の魅力を生かします
- 高齢者や障がい者が安心して地域に住めるようにします。住まいの確保へ目黒区内の民間賃貸オーナーや不動産関係団体との連携を深め、福祉型居住支援を充実させます

2.子育て支援で未来をつくる
- 乳幼児を持つ親の孤立を防ぐため、伴走型の支援に努めます。一時保育や病後児保育などの充実も図ります

3.誰一人取り残さない社会へ
- 若手保育士を育て、介護の担い手を支える環境をつくります
- デジタルに不慣れな人に対し、スマートフォンの使い方やオンライン行政手続きなどをサポートする仕組みを構築します

political record 関けんいちの実績

1.目黒区独自の出産・子育て支援
- 出産育児一時金が50万円へ増額することに加え目黒区独自に「新生児誕生祝金」として2万円を支給
- 東京都が発表した18歳以下の子どもへの月5,000円の給付（2024年1月に1年分の6万円給付）に令和5年度のみ、目黒区独自で1万円の上乗せ給付

2.一人の声をカタチに！障がい者支援策の充実
- 障がい者の通所サービス利用時間の延長が実現。親の就労に影響が出ないよう、2時間延長するための新たな事業を創設しました

3.区立小中学校体育館にエアコン設置
- 子どもの日常的な利用での熱中症対策に加え、災害時には避難所となる小中学校の体育館について、区立の31校すべてでエアコンを設置

関（せき）けんいち

公明党公認

学校を、もっと良くしたい

私は区議会で、目黒区の学校のこと、子どもたちを応援すること、先生たちを助けること、子育て家庭を支援することに取り組みます。

子どもたちが前を向き、力強く生きていこうという気持ちを育むためには、一日の大半を過ごす学校の環境を充実させていくことこそが大切です。
先生自身の人生が満たされた状態で子どもたちと向き合えるよう、まずは、先生を、そして教育現場を全力でサポートしていきたい。それが、子どもたちの未来を作っていく土台となると信じているからです。「真の教育の目黒」を必ず実現させます。
私にやらせてください。

後藤さちこさんと一緒に私たちがやります！ 蓮舫

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

立憲民主党
後藤さちこ

東根小PTA会長
小学校PTA連合会会長
目黒区教育委員 歴任

1969年生まれ、関西外国語大学卒業
JAL国際線CAを13年
早稲田大学先進理工学部研究室秘書
趣味は登山とバレーボール

目黒区で産まれ育ち、区議になって8年になります。すぐに実らせることが難しい政策でも、土をならして種をまき、信念をもって水をやる。垣根を越えて協力し、実現へ向けて努力する。そんな議員でありたいと思っています。これからも真摯に働いてまいります。ぜひ西村ちほにあなたの1票をお託しください。

新時代の防災
みんなが体育館に雑魚寝するような避難をできるだけ避け、それぞれの状況に合わせた避難と準備へ。コロナ禍の影響や複合災害対策も視野に入れ、危機に強い目黒をつくります。

次世代の育成
育児の孤立を防ぎ、より多くの目と手で子どもの育ちをバックアップする環境を充実させます。保育状況や所得制限により子どもの支援に差が生まれない目黒区を目指します。

福祉力の向上
病気・要介護・認知症など、それまでの暮らしに変化が訪れても安心して生活していける。また、違いがあっても誰もが共に利用しやすく暮らしやすい。そんな街づくりに努めます。

街の再構築
賑やかな商業エリアと閑静な住宅エリアが隣接して広がっている目黒区。訪れたくなる魅力とブランド力を保ちながら、地元の方が快適かつ安全に暮らせる環境をつくります。

3期目の4年間で目指します。 **目黒区を在宅避難先進区に！**

プロフィール　自由が丘の古書店に生まれる。目黒区立緑ヶ丘小学校、青山学院中～大学を卒業。平成27年目黒区議当選（現在２期）。防災士/自由が丘町会副会長

西村ちほ

自由民主党公認

（この選挙公報は、目黒区議会議員及び区長選挙における選挙公報発行条例第４条第１項の規定により、候補者から提出された原稿をそのまま掲載したものです。）